

安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画
策定・評価委員会 会議概要

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 会議名 | 令和5年度 第2回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 |
| 2 | 日時 | 令和5年9月25日(月) 午前9時30分から午前11時30分 |
| 3 | 会場 | 安曇野市役所本庁舎 4階 大会議室 |
| 4 | 出席者 | 磯野会長、細川副会長、土肥委員、百瀬委員、水原委員、宇都委員、夏目委員、山田委員、小澤委員、川崎委員 計10名 |
| 5 | 市側出席者 | 沖市民生活部長、地域づくり課 保科課長、金子係長、平林主任、土橋主任 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 0人 記者 0人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 令和5年9月29日 |

協 議 事 項 等

1 概要

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 報告事項

①先進地視察研修について

【ご感想等抜粋】

- ・生涯学習と深い関わりの中で活動をされているように感じた。
- ・課題は両市とも社協との協働であるようにみえた。
- ・コーディネーターを重要視していたが、具体的な方策は分からなかった。当市でも検討は必要になってくる。
- ・平日なのに利用者が多くいた。その経過を知りたかった。
- ・当市でいう公民館活動をサポートセンターで実施しているのかもしれない。
- ・区長の立場としては、サポートセンターの中に区長会の事務局を置くのは難しいと感じた。
- ・協働は目的ではなく手段であるため、協働を推進していくために効果的なら「協働」という言葉は上手く活用していく必要があると感じた。
- ・茅野市では貸館業務が負担になり、本来のコーディネーター業務を発揮しづらい、という話は今後市のセンターの運営方法について検討する際に参考とする必要がある。
- ・茅野市の方で福祉系の事業者が離れてしまったと聞き、大変驚いた。
- ・協働について職員の理解不足もあると聞いた。どうしたら理解が深まるか検討が必要。

②学習会 (8/23) の概要について

③令和5年度に市が市民等と実施する個別協働事業

④市民活動サポートセンター事業実施状況について

【ご意見等】

(委員)

- ・土日は区の活動が多く、セミナーには参加が難しい。

・ゆるつなは、若者が自身の活動や思いを堂々と話し、つながっていて頼もしいと思った。

(委員)

・市内に市民活動をされている子育て世代の若い方は多いが、家庭の関係で土日参加は難しいと聞いた。託児所などがあれば参加しやすいかも？セミナーの内容は興味を引くものだと思う。

(会長)

・ゆるつなは広くつながっていて若者が多く参加している一方、世代が固定化されているように感じる。いろんな世代がつながるよう模索する必要があるのではないかと感じた。

(委員)

・市に人材は多いが、形になってこないことが問題である。

・現在、市 HP にサポートセンターのページがあるが、独自でサポートセンターの HP を作成するような環境整備も検討が必要だと思う。

・佐久市はセンター通信を全戸配布している。各種 SNS での発信も重要で引き続き実施する必要があるが、目に触れることが重要なので検討してほしい。

～～～ 休憩 ～～～

(4) 協議事項

① 第3次計画(案)について

【ご意見等】

(委員)

・全体的にすっきりしていて、タイトルが分かりやすい。3つの基本方針も良いと思う。個人的には29Pの推進体制が非常に重要だと思うが少し弱い気がする。ここは委員会も含めて運営体制を検討していくことが必要。持続可能な運営には、個人的には民間と行政と一緒に運営できればと思う。市職員も協働に対して認識してもらうような体制や制度がほしい。

(委員)

・タイトルの「みんなで作ろう」は行政からの押し付けのように感じる。

・20Pの基本方針Ⅰの「学ぶ」は抵抗があるので「知る」でいいのではないか。

・「市民」という言葉遣いも検討してほしい。

・29Pのセンターの機能強化や推進体制については具体的なイメージが持てるようにしてほしい。

(委員)

・「社会教育」が「生涯学習」に変わり、知る・ともに学ぶことが重要である。市として「学ぶ」という表現をどの程度に位置づけるか。市民が「知る・学ぶ」を入口にできるような計画にできればと思う。

・自分が参加して地域を創る担い手である、というような文言を入れてほしい。

・生涯学習課と連携し、両者の計画の整合性を図ってほしい。

(委員)

・19Pの2段目の3行目の「協働活動」だが、「活動」でいいのではと思う。

・20Pの基本方針Ⅱの基本施策1「ゆるやかなつながり・対話の場づくり」だが、24Pからは「対話」が見えてこない。「対話」ではなく「活動」でいいのではと思う。

・27Pにデジタル化について、入れた方がいいと思う。

(事務局)

- ・24Pの「対話」について、世代に関わらず一人一人が対話を通じて、相手を理解することがつながりづくりの中では重要だと思う。
- ・27Pにデジタル化について入れようか迷ったが、具体的にどう取り組めばいいか、また市区長会でも検討中であるため、今回は入れていない。その代わりに28Pの方にデジタル技術の活用支援を入れた。

(委員)

- ・24Pの「対話」については良いと思う。地元ではPTAが解散の危機でつながりを保つため、PTAの代わりに地域住民がやれば良いということになり、学校と調整し、学校の図書館にサロンを開設している。また、近隣の子ども園とも調整し、サロンに子ども園の子ども、小学生、地域住民が集う場を計画している。先生目線と地域住民目線は違うため、うまく共存できれば子どもたちが学校の中でも地域の中でも成長できると思う。

(委員)

- ・「つながりづくりが重要」から「対話」は良いと思う。その仕掛けづくりをどうするかが重要である。
- ・基本方針Ⅰ、Ⅱと比べてⅢは次元が違うような気がする。
- ・つながる仕掛けづくりが大切という中で、子どもたちとのつながりでは、楽しさ、面白さと合わせてお得感をいれるといいのではと思う。ボランティアに参加することのメリットをいれる。
- ・ボランティア活動に参加すると履歴書に記載できたり、ボランティア活動自体が学生の居場所となれるような存在等

(委員)

- ・第4章の「計画の目指す姿と基本方針」を冒頭に記載できないか。
- ・各施策には目標とする指標があるが、指標を記載する必要があるのか。
- ・基本方針ⅠとⅡのすみ分けがハッキリしていないように感じる。

(委員)

- ・一般の方からすると市民活動への参加はハードルが高いと思う。とにかくハードルを下げて何かつながりを持ってもらうことを目標にする方がいいと思う。
- ・市民活動セミナーのクラウドファンディングはやりたい人だけ参加する。ゆるつなはタイトルからも分かる通りハードルが低いので参加しやすいと思う。

(委員)

- ・市民の意識は市民アンケートで把握しているが、職員の意識はどう把握しているか。
- ・13P～17Pの第3章のアンケート結果は後ろの方に入れた方がいいと思う。

(委員)

- ・既存団体の課題として、後継者、高齢化問題がある。
- ・職員も関心を深めてほしい。可能なら退職後、市民団体と関わりをもってほしい。

(委員)

- ・計画の目指す姿と方針があればいいので、概要版も作成してほしい。

(委員)

- ・職員の市民活動への意識向上のため、簡単な手引きのようなものがあればいいと思う。

(委員)

- ・目標とする指標だが、計画に載せる必要があるのか。

(委員)

- ・昔、総務省から目標とする指標を具体的に数値化するよう言われ、今に至っている。現在は、国と対等な立場なため、個人的には目標とする指標は必要ないと思う。
- ・各事業課で「協働の達成度」を数値化することは必要だと思う。

(事務局)

- ・協働の計画に目標とする指標はなじまないと感じている。だが、職員的には指標があると次年度どうすればこの目標を達成できるか考えるきっかけとなるため記載している。
- ・概要版は作成する。
- ・今回いただいた意見に対する委員の考えやご意見を伺いたいため、後日アンケートをとってもよいか。→了解。

(委員)

- ・行政の計画であるため、職員向けの言葉と広報に掲載するときの言葉を分けた方がいいのではと思う。

(委員)

- ・計画を作成することも大事だが、作成後、計画の周知や活用方法も考えてほしい。

(5) その他

- ・9/30 (土)「あづみの市民活動フェスタ 2023」穂高交流学習センターみらい
- ・9/30 (土) フェスタ協賛企画「明科再発見ウォーキング」明科公民館
- ・10/9 (月・祝) フェスタ協賛企画「ふるさとさんぽ 安曇野を英語でガイド」大王わさび農場
- ・10/7, 8 (土, 日)「安曇野環境フェア 2023」堀金総合体育館
- ・10/29 (日)「あづみの国際 DAY ! 2023」穂高交流学習センターみらい

(6) 閉会